

# 一喜一憂

No. 2

「一喜一憂」

情況の変化に喜んだり、心配したりすること

藤屋 侃士

(下松市幸ヶ丘)

## 寒さの中、味噌づくり

「底をつく寒さ」と噂、しょうゆの仕込み  
久しく聞かなかった言にはかかせないそう  
葉を思い出した。1年だ。みそ作りを得意な  
でもっとも冷え込む時 友人が言っていた。  
季になる大寒を迎え

今は日本中の酒蔵や  
味噌、しょうゆ工場は  
仕込みの真つ最中かも  
られない。日本酒は春  
先、味噌、しょうゆ  
な時季だからこそ恵  
みもある。いわゆる 妻の友人の奥さん連中  
「寒の水(かんのみず)も4、5人が集まって  
と言われるもの。1年 この時期味噌作りに精  
でもっとも冷たく澄み を出している。  
きった水とか。この清 うちは2人で生活し  
らかな水が日本酒や味 ているので、おすそ分



手づくりに勤しむ婦人

「に」と言った。  
この道を通っ  
た旅人や、お  
百姓さんや学  
童たちも手を  
合わせて何ら  
かの願いを託し  
たであろう。  
特に育児や健  
康のような身  
近な生活をこの  
お地蔵様に願っ  
たりしたのであ  
ろう。

けで十分足りる。古い  
の身には大豆を煮て、  
つぶすのはひと苦労。  
去年からは、知恵を出  
し合つて、大豆はミキ  
サーでつぶすようにし  
ているとか。それでも  
手づくりはうまい。今  
年もおすそ分けを期待  
している。

《初地蔵(はつじぞ  
う)》  
久しぶりの春のよう  
な陽気につれられて、  
5歳を迎えた孫と散歩  
を楽しんだ。  
若いころ、子どもた  
ちを連れて歩いた山道  
のドングリの木も大木  
になり、大・小のドン  
グりが道に転がってい  
た。今は、孫が「ドン  
グりが帽子をかぶって  
いる」と喜んで拾って  
いる。  
少し行くと田んぼの  
あぜ道に出る。道ばた  
の祠(ほこら)で、穏  
やかな笑みを浮かべ私

私たちの訪れを見守るか  
か「身代わり地蔵」と  
言つたものが愛されて  
会う。今日は新年はじ  
めるのお地蔵様との出  
会いの日、名付けて「初  
地蔵」。孫はいつ覚え  
たのか直立不動の姿勢  
で手を合わせていた。  
「何って祈つた？」と  
聞くと、「パパとママが  
病気をしませんよう  
曰く急がば回れ。」

長ねぎ

お湯を注ぐだけで簡単  
毎日の食卓の味

長ねぎの  
おみそ汁

合わせみそ仕立て

なす

お湯を注ぐだけで簡単  
毎日の食卓の味

なすの  
おみそ汁

合わせみそ仕立て

最近のみそ汁



春が待たれる